

# 朝倉とともに 2018.3.4

防災士 朝倉災害支援ボランティア活動センター

代表 天野 時生 副代表 橋本 康弘

## 第16号

### 長く厳しい道のりをともに

3月4日(日)朝倉災害支援2018年の活動がスタート。昨年12月から3ヶ月振りの活動は災害支援ニーズ調査を山間部と河川流域の杷木志波、松末地区と黒川地区で行った。



昨日の雨も上がり、天候は晴れて気温は20度を超え、汗ばむほどの暑さの中、3名の仲間ですまは志波地区の普門院と柿農園の復興状況を確認。また、同区域内の道路等の復旧状況を確認した。普門院は業者が入り、柿農園は国や県の財政支援を受けて工事に入るよう申請中であった。

下流域での河川沿い地域では、がけ崩れや道路の陥没等そのままの状態が残っていたが、河川の整備も進み、通行できなかった道路も開通し、車で走りながら復旧状況を確認した。



九州北部豪雨で亡くなられた方へ謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに早期の復旧・復興を祈念します。



さらに山手に向かい、数か月前までは通行止めであった黒川地区に入った。途中でかろうじて残った数件の家屋が目に入る。その内の一軒では家屋や敷地内の整備をされていたが、奥の家屋には人影が見えない。コミュニティが崩壊し、戻っても孤立する状況であり、復興へ向けて大きな課題である。

## 復興を信じ 松末地区支援へ



ある見晴らしの良い場所から谷あい広がる集落を見渡した。上流の柿農園が崩れ、その土砂が流れて集落を呑み込み下流へ押し流していったのだろう。その光景が心が痛くなるほどよくわかった。まだ手付かずの場所もあると聞く。我々はこの状況を心にしっかりと刻みつつ、最後に松末地区に入り、被災され、お世話になった方が居住するこの地区の支援を今月下旬からさせていただくこととなった。長く厳しい道のりをともに歩みたい。